



家康の足跡たどる

みらい学会がツアー

静岡、袋井

徳川家康公顕彰400年祭を前に設立された徳川みらい学会(芳賀徹会長)の第1回特別企画の奥内見学ツアーが17日行われ、会員40人が歴史に触れる旅を楽しんだ。

一行が訪ねたのは、袋井市久能の可睡齋と静岡市葵区の臨濟寺、同市清水区の清見寺。案内役は同学会理事で戦国史が専門の小和田哲男静岡大名菅教授が務めた。

臨濟寺は家康が幼少の竹千代時代に人質として過ごした。可睡齋については、その名付けに深く関わった。清見寺には善隣外交の礎

を築いた朝鮮通信使の貴重な資料が残されている。参加者は可睡齋の佐瀬道淳斎主から寺に伝わるエピソードを聞き、臨濟寺では当時学んだとされる「手習いの間」を見学した。各

地に向かうバスの中では、小和田名菅教授が家康を育てた禅宗の高僧たちの系譜などを解説した。同学会は4月に発足し、3回の講演会を開いてきた。本年度中、さらに3回の講演会を予定しているほか、見学ツアーなどの特別企画も実施する。